

# 売上高・利益ともに 過去最高を更新しました。

医薬品・医療機器開発にかかるアウトソース市場は、国内外とも拡大傾向にあります。製薬会社・医療機器企業のアウトソース活用ニーズは引き続き旺盛であり、より高品質で効率的なサービスが期待されています。

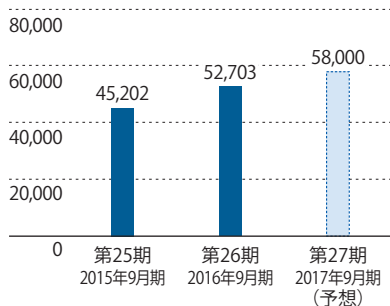
このような環境のもと、当社グループの2016年9月期の連結業績は、売上高52,703百万円(前期比16.6%増)、営業利益6,224百万円(同13.5%増)、経常利益6,589百万

円(同22.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益3,966百万円(同83.4%増)と計画値を上回り、さらに過去最高記録を更新しました。

国内SMO事業、Global Research事業の大幅な伸長、利益面では、国内CRO事業における収益性の向上、Global Research事業における初の黒字化などが収益に貢献しています。

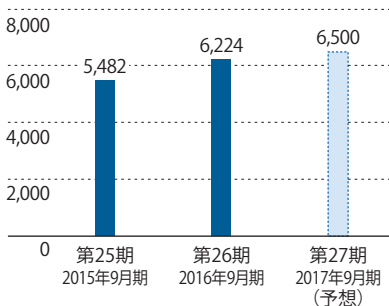
## 売上高

(単位:百万円)



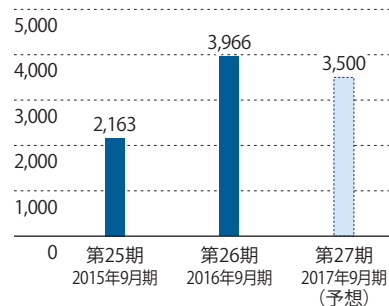
## 営業利益

(単位:百万円)



## 親会社株主に帰属する当期純利益

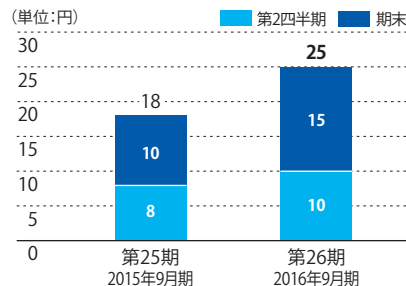
(単位:百万円)



## 株主還元について

当社は利益配分について、将来の事業展開と収益力向上を見据えて企業体質の強化に必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様への利益還元を継続的に充実させていくことを基本方針としています。

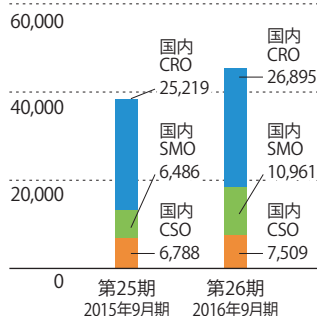
上記の方針に則り、当期の業績を踏まえて、期末配当は1株当たり15円(特別配当5円+普通配当10円)と、前期実績から5円の増配としました。実施済みの中間配当10円と合わせた年間配当金は25円です。



## 国内事業概況

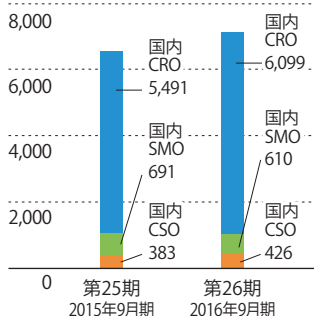
### 売上高

(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)



国内CRO事業では、原価管理の徹底と、モニタリング業務でのリソースの最適化、データマネジメント業務でのグループ会社との連携強化が増収増益につながりました。

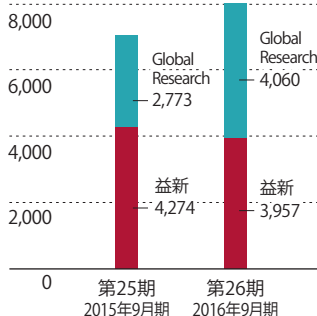
国内SMO事業は、(株)イーピーメントが(株)総合臨床サイエンスと合併したことにより大幅増収を達成する一方、利益面では先行費用の発生、のれんの償却額の負担増加により減益となりました。

国内CSO事業は、医薬向けCMR(契約MR:医薬情報担当者)が伸び悩むなか、MRダイレクト(電話によるディテリング業務)などが好調で医薬向けコールセンター部門が大きく伸長し、売上が増加しました。

## 海外事業概況

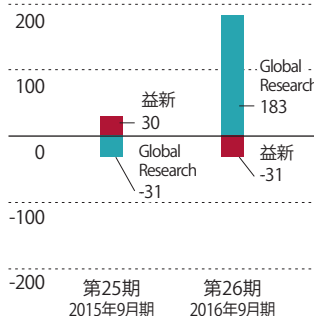
### 売上高

(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)



Global Research 事業では、継続中のプロジェクトが順調に進捗したことに加え、積極的な営業活動の結果として多くの新規プロジェクトを受注し、売上が前年同期から大幅に伸長しました。加えて、利益面でも営業利益が初の黒字転換を果たしました。

益新事業では、益通(蘇州)医療技術有限公司が扱うデジタルレントゲン検査機や画像フィルムなど医療機器の販売が順調に推移しました。しかしながら、為替の円高の影響を受け、増収には至りませんでした。同様に、利益面でも営業損失となりました。

## 次期の見通し

# 売上高・営業利益の過去最高値更新を目指します。

2017年9月期は、引き続きホールディング体制の充実を図り、各セグメントの自立的な活動を促進しつつグループマネジメント力を強化します。連結業績は、売上高

58,000百万円、営業利益6,500百万円とそれぞれ過去最高を、また親会社株主に帰属する当期純利益は3,500百万円を見込んでいます。